

## 経済政策研究会議事録

日時：2024年7月10日（水）14時～16時

場所：永田町海運クラブ308号室

出席者：長瀬、牛嶋、櫛、川上、光多

### 議論概要

1. 日本の政策形成の前提となる政治体制について、経緯を検証することとし、光多より別紙ペーパーによりレク、これをベースに議論を行った。全体の推移を明治期（国会開設期）から戦後の田中角栄の首相時代までと、田中以降とに分けて議論することとし、今回は明治期から田中時代までを説明、議論。

### 2. 議事概要

- (1) 明治14年政変でわが国の政治システムの議論があった。イギリス型かプロイセン型化の議論である。大隈、福沢、板垣等のイギリス型の主張と、伊藤、井上毅等のプロイセン型の議論が行われ、結局、プロイセン流となった。
- (2) 立憲政友会と憲政会との二大政党。その間、様々な政党が設立された。
- (3) 中選挙区制となる。立憲政友会は小選挙区制を主張したが、憲政会は勢力が弱かったこともあり、中選挙区制を主張。この体制が戦後、90年代まで続くこととなる。
- (4) 政党と徒党との区別がつかなかった経緯がある。徒党、偽党とみなされた党は迫害を受ける。
- (5) 明治時代には、（現代でいう）派閥はなかった。自らの主張で党を設立し、主張が異なれば新党を創設した。
- (6) 戦前の政治体制（二大政党）が大政翼賛会を経て、戦後に続く。
- (7) 戦後、自由民主党の大合同により、一大政党が成立し、その後派閥が発生してきた。派閥の嚆矢は、池田派（宏池会）となる。

以上